

奉納書道展、

締め切り迫る！（九月二十日（火）まで）

各院または納経所へお届けください。



題字 第241世天台座主 玄深師(恵亮院藏)

餘慶寺だより
 編集・発行 上寺山餘慶寺
 〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187
 納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187
 恵亮院 TEL/FAX 086-942-3788
 本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823
 吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789
 定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490
 明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069
 圓乘院 TEL 086-942-2356
 ホームページアドレス <http://www.yokeiji.com/>

ひとくち法話

『入れ物がない 両手で受ける』

これは短い文ですが、いろんな情景を想像させ、また、何か考えさせられる不思議な文のように思います。

誰かが食べ物でしょうか何かを持って来てくれたのです。それが受け取る入れ物を持ち合わせていない。それで、両手をだして受け取ったと、ただそれだけのことのようにすが、もらった物は何だったのでしょうか。畑で取れたての豆でしょうか、山で拾って来たばかりの栗でしょうか。また、差し出された手はどんな手だったのでしょうか。ふくよかな手、仕事で荒れた手、やせ細った手・・・さらには、何かを差し出したというその人はどんな人だったのでしょうか。などなど、この文からいろんなことがイメージされますが、「差し出されたものは」「物」そのものではなくて、それを持って来た人の『心』であると考えてはどうでしょうか。だから、受け取った人はそれを『有難うございます』と感謝して受け取ったのです。何かの入れ物で受け取ったのなら、『心』をいただくということが見えにくいかもしれません。手それとも両手で受け取るとき、『物』を感謝していただくことを意味します。

取れたてのものを差し出した人の心は布施の心にも通じる心であり、それを感謝して受け取った人、この二人の間には温かい真心が通っています。

いかに社会が進展し価値観が多様化しても、このような互いに心の通い合う世の中でありたいものです。

日常の仏教用語集

■「彼岸」
煩惱の流れを超えた彼岸の岸の涅槃の地、つまり悟りの境地を表す。

■「四苦八苦」

四苦とは生・老・病・死、八苦とは愛別離苦（愛するものと別れる苦）、怨憎会苦（怨み憎まねばならないものと会う苦）、求不得苦（求めて得られない苦）、五蘊盛苦（総じて人間の活動による苦）の四苦に先の生老病死の四苦を加えて八苦。

■「一刹那」

きわめて短い期間のこと。一瞬のこと。



餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日（於 薬師堂）
毎月8日 午前10時～（8月はありません）
護摩供養をしています。
ご祈祷のお申し込みは随時納経所へお願いします。
観音縁日（於 本堂）
毎月18日 午前8時～
みんなで観音経をあげます。お経本は本堂にありますので、お気軽にお参りください。



吉備の国 寺社巡り スタンプラリー開催中!

餘慶寺寺宝展

十月十六日(日) 九時三十分～十六時

会場 本堂・薬師堂・餘慶寺会館

今年で第十四回となりました餘慶寺寺宝展が右記日程で開催されます。今回は本堂ご本尊をお守りしている四天王像が無事修復を完了いたしましたので、お披露目いたします。

また餘慶寺会館講堂では、豊原北島神社に伝わる色々威甲冑(国指定重要文化財)に焦点を当てて、岡山県立博物館学芸員の佐藤寛介先生が特別講演をいたします。(十時三十分～十二時)

講演会終了後には、ミニコンサートとして、「おせっかいばあば」天明さんが、楽しいトークを交えながら、懐かしい歌を聴かせてくださいます。(十二時頃)

なおこの日には、隣接する豊原北島神社で恒例の秋の大祭が執り行われる予定です。出店や寺庭婦人方の「もみじカフェ」もあり、きつとにぎやかな秋の一日になることでしょう。

皆様お誘い合わせの上、ぜひ上寺へおいでください。



昨年の寺宝展の様子

初盆供養会法要のご報告

八月十五日(月)、この一年間に亡くなられた方々を弔う初盆供養会が厳修されました。

初盆とは、四十九日(満中陰)の忌明け後、初めて迎えるお盆のことです。新盆とも言います。また、お盆とは古いインドの言葉「ウンバーナ」(逆さに吊るされた苦しみ)からきた盂蘭盆を略したものです。お盆には初盆の方はもとよりご先祖様があの世から帰ってこられるため、大切におもてなしして、心から感謝することが肝心です。九時、十時半の法要には、合わせて二百人以上の方がお参りされ、故人を偲び、一心に供養されていました。お参りに来られた皆様にとって、よいお盆になったと感じております。



千手観音像の前で
白木位牌のお焚き上げ

餘慶寺水まつりのご報告

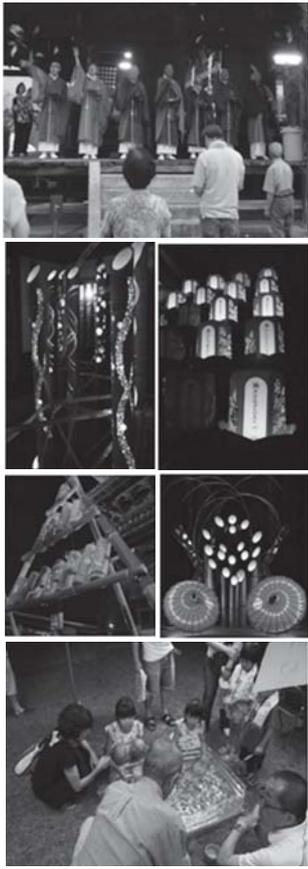
八月二十七日(土) 十八時より、餘慶寺本堂・境内けいだいにおいて水まつり(施餓鬼会・万灯会)を厳修いたしました。

「施餓鬼会」とは、餓鬼(弔う者のない無縁の亡者)のために様々な種類の飲食を施す法会です。また「万灯会」とは、仏さまに灯明とうみょうを供え、滅罪生善や諸願成就を祈念する行事です。

塔婆お焚きあげ法要後、本堂にて施餓鬼会法要を執り行いました。山内僧侶による本堂北縁から境内への読経は圧巻で、参拝された方からも大変好評でした。また、水棚の方では水塔婆に水をかけて手をあわせる多くの方の姿を見ることができました。

万灯会では、例年の荘厳に加え、今年は竹あかりも加わり、より一層供養の灯りに照らされた境内となり、幻想的な雰囲気となりました。

夏の終わりの餘慶寺水まつり、お参りされた皆様にとってよい思い出となったと確信しております。



竹あかりワークショップ



八月二十二日(月)、餘慶寺水まつりで境内を灯すための竹あかりを制作するワークショップが開催されました。当日は地元じよんの小学生が集まり、竹吉さんの指導のもと、チョークで描いたり型紙を貼ったりして、思い思いの模様を考えて工具で穴を開け、竹あかりを制作しました。

「どんな模様にしようかな」

「穴を開けるのむずかしい！手が痛い」

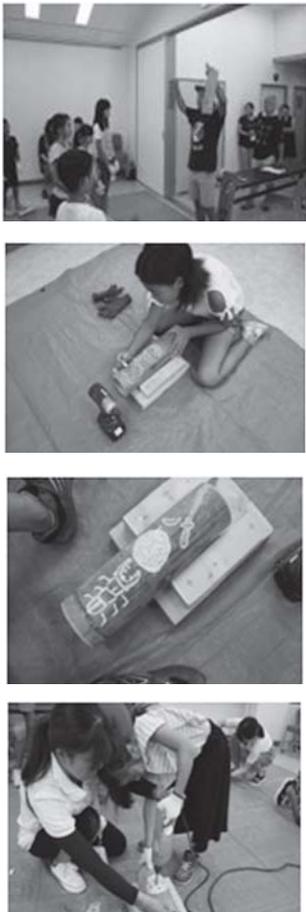
「ここは穴の大きさを変えようかな」

子どもたちのいろんな声が飛び交い、時間はあっという間に過ぎていきました。

「少し難しかったけど、楽しかった！」

というような感想がたくさん聞こえました。

水まつり後は、お月見の時などご自宅でも楽しんでいただければと思います。



薬師護摩祈祷

護摩木三百円

木札授与三千円／五千円

毎月第二日曜日午後二時より阿弥陀堂にて納骨堂説明会を行っています。

餘慶寺境内紹介

『弁天池』

本堂の東側に生垣に囲まれた小さな池があります。その真ん中にはお社があり弁才天がお祀りされています。そのため、この池を弁天池と言います。弁才天のルーツは古代インドの水の神 Sarasvati ティとされることから池の真ん中にお祀りされているのでしょうか。

弁才天と聞くと、七福神を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。弁才天はその中の紅一点であり、琵琶を弾く妖艶な姿で現されることも多いため、特に印象深い方でもあります。弁舌、学問、芸能、智慧の女神として信仰されています。また、「才」の字が「財」と記載される場合があります。この場合は財福の女神として信仰されます。

上寺の弁天池は、古くにはお社の周りを歳の数だけ廻るとおかげがあるといわれ信仰されており、今でもそのようにお参りする方を見ることがあります。少し狭いため、気をつけてお参りいただければと思います。



よけいじ寺子屋だより

会場 餘慶寺会館 (十四時～)

寺子屋写真館



今後の予定

- ☆『北大路魯山人と備前焼』 九月十九日(月・祝) 講師 瀬戸内市立美術館学芸員 関 洋平先生
 - ☆『分かりやすい仏教講座』 九月二十五日(日) 講師 定光院・円乗院住職 西野祐誠師
 - ☆『天部の仏たち』 十月二十三日(日) 講師 明王院住職 中尾徹海師
 - ☆『重要文化財 色々威甲冑のひみつにせまる』 十月十六日(日) 講師 岡山県立博物館学芸員 佐藤寛介先生
 - ☆『未定』 十一月十三日(日) 講師 吉祥院住職 大石恵海師
 - ☆『楽しく年賀状づくり』 十一月二十六日(土) 講師 日本画家・岡山日展会会員 神戸淑子先生
- ※聴者若男女どなたでも聴講可能です。(無料)
お誘い合わせのうえ、ご参加ください。
十月十六日(日)は十時半～十二時開催です。
十一月二十六日(土)は十四時～十六時開催です。

編集後記

今年の夏は酷暑でした。棚経では、去年よりも汗をかく量が多く、その暑さをとてもよく感じました。そのような姿を見てか、家の中を涼しくしてください。つたり、お経が終わった後にお茶を出してください。と檀家様の優しいお心に触れ、乗り切ることができました。本当にありがとうございました。